



大樹のこころ

歌える学校

人はなぜ歌を歌うのでしょうか。なぜ歌を聴くことが好きなのでしょう。学校現場において、歌はとても大きな存在だと思います。その大きさを自分が実感したのは、新型コロナウイルスが蔓延していた頃でした。令和2年、感染防止のため様々な活動が自粛されていました。「3密を避ける」という意味で、教育の現場でも多くの制限がなされました。音楽の授業もその一つ。感染防止のために歌唱指導ができない時期がありました。そんな中で感染レベルが引き下げられ、歌唱が解禁となった日がありました。あの日のことは忘れられません。校長室で執務を取っていたとき、子供たちの歌声が聴こえてきました。その歌声に思わず飛び出し、音楽が行われている教室へ向かいました。そこにいたのは自分だけではありませんでした。職員室にいた教頭先生をはじめとする担任外の先生方が、子供の歌声を聴こうと集まっていました。「子供の歌声が流れる校舎は、何と健やかなことなのだろうか」と感動したことを、今でもはっきりと覚えています。



歌は聴く者の心に感動を与えるだけではありません。歌う者の心にも変化をもたらしていきます。健やかなクラスは大きな声で歌うことができるものです。明るい学級は、子供が互いを認め合う関係ができているので、歌うことに対して自信をもって臨めるからです。逆に心配事を抱えている学級は、歌声に張りがありません。ですから音楽の授業を参観すれば、学級の状態をある程度把握することができます。1学期の頃には歌が歌えず心配していたクラスが、3学期には見事なハーモニーを奏するという光景を何度も見てきました。歌は子供の心を健やかに引き上げる力があるのです。人が歌を歌う理由はここにあるのではと思います。

自分は、本校の先生方に「歌えるクラス、歌える学年にしてほしい」とお願いをしています。今、大樹寺小では素敵な歌声が響き渡っています。3月に行われる卒業を祝う会や卒業式に向けて、各学年が歌練習に取り組んでいるからです。その歌声が聴こえてくると、とても幸せな気分になります。美しい歌声に「大樹寺小は歌える学校だなあ」と感激することもしばしば。祝う会や卒業式で歌われる歌。子供たちがどんな歌声を披露してくれるのか楽しみです。こうした歌が聴こえてくるのは別れの季節だと思うと、少し感傷的にもなっています。

2月中旬に「大樹寺小の授業を参観したい」ということで、2つの学校から先生方が視察にみえました。参観された先生方は「衝撃だ」「感動した」「心が洗われた」と言ってみえました。さらに、それらの学校から「子供が生き生きと活躍できる授業の秘密を知りたい」という依頼があるなど注目を集めています。来年度に予定している研究発表会へ向けて順調に進んでいます。